

令和 7年度 園評価書

園番号 2 園名 安倍口こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	関係者評価	改善策
たくましい子	気づき・自分なりに考えやってみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を働かせて遊ぶ中で、いろいろなことに気づき、遊びを楽しむ姿がある ・気づいたことや、やってみたいことを自分なりに表現している ・自分の考えたことを、試行錯誤しながら夢中になって遊ぶ中で充実感や満足感を味わう姿がある 	<p>水遊びから泡や泥、氷などを感じられる機会や、サナギから蝶へオタマジャクシからカエルへなど小動物と触れ合う機会などで色々な気づきや不思議さを感じていた。ドングリ転がしでは天秤を使ってドングリの重さを比べたり、転がる速さや形の違いに気づいていた。農家さんでのお茶摘みやイチゴ摘み、園で収穫した野菜や米でクッキング、その稲を使って正月飾り作りなど、五感を使って経験を広げることができた。また、写真やタブレットの動画を使い、視覚での振り返りを行うことで、遊びが今日から明日へつながっている</p> <p>子どもの表情が変わる瞬間やしぐさを読み取り、その場に合った関わりをすることで、自分なりの表現の仕方に自信が持てている。「やってもいい?」「かして」などの言葉がスムーズに出ようになり、保育者も認める言葉を使っていくことで「いいね」「すごい」など友達を認めたり褒めたりする姿が増えてきた</p> <p>子どもの手に取りやすい位置に教材をそろえたことで、「やりたい」がすぐ形にでき、表現する楽しさが味わえている</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で「やってみたい」と思える環境が作られていることが、「もっとやりたい」に結び付いている。 ・小学校でも自分の興味関心に基づき自ら問いを立てる探究学習があるが、こども園での活動が基礎となっているように思う ・10月の園評価に比べ具体的なことが書かれ、どの項目も成長が見られている。園の状況や良さ、4月からの子どもの成長を園外の人みんなに知ってもらえないのがもったえなく思う 	<p>子どもが興味、関心を持てるように環境を整え、子どもが気づいた場面を見逃さず思いに共感し、一緒に面白さや不思議さを味わっていく</p> <p>一人一人の表現方法を繰り返し認めていくことで自信が持てるようにしていく</p> <p>試行錯誤できる環境を作ったり一緒に考えられるような言葉掛けをしたりしながら、できるまでの過程と一緒に楽しんでいく</p>
大項目	中項目	評価指標	園説明				改善策
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や経験を十分に把握し一人ひとりに合わせた適切な援助を行っている 	<p>週案検討やケース検討、学年会議などで子どもの発達を職員で共有して、次にどんな経験をさせたいかなどを話し合い実践することができた</p> <p>発達や経験知を把握し、どんな経験が必要かを考え一人一人に合わせた働きかけをしていくことで、色々なものに関心を持つ姿や、やってみようとする意欲につながっている</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家に帰ってから「今日はこんなことをした。でも難しくて出来ない所もあったから明日もやってみる」という声が子どもから聞かれる。遊びが続いていると実感している 	<p>一人一人の発達や経験値を把握し、個人差を考えながらどんな援助が必要かを考えていく</p>
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生活リズムを理解し、穏やかな気持ちで生活できるように子どもの気持ちに寄り添っている 	<p>子どもの情緒の安定を踏まえながら、その日の体調や気分に合わせて働きかけを行い、穏やかな気持ちで遊びや活動に入れるようにした</p> <p>朝の会や帰りの会で事前に次の日の予定や一日のスケジュールを伝え子どもたちが見通しを持って行動できるようにしたことで、自ら考え動く姿が見られている</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が子どもをほめる時に、今も行っているとは思いが「今まではこうだったけれど、今日はここまでできてすごいね」と成長の積み重ねを意識的に伝えられるとよいと思う 	<p>子どもの心や体調の変化に気づけるよう職員間で伝達し、子どもへの配慮を行っていく</p> <p>子どもの思いに寄り添い、その日の計画を柔軟に変えていく</p>
	(3)環境を通して行う教育及び保育	<ul style="list-style-type: none"> ・「おもしろそう」「たのしい」「やってみたい」と思った時に考えたり、試したりできる環境が用意されている 	<p>前日の遊びを振り返ることができるよう、写真を使ったドキュメンテーションやタブレットの映像を使い話し合うことで「やってみたい」「次はこうしたい」という思いにつながり、翌日の遊びにもつながっている</p> <p>自分のアイデアを形にできた満足感が味わえる経験を繰り返していくことで、次の「おもしろそう」「たのしい」「やってみたい」を見つけ表現し実践できていた</p> <p>色々な教材が手の届くところにあり、子どもの「やってみたい」が実現でき環境を整えることで、遊びをじっくり楽しむ姿が見られている</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との交流が積極的に行われている。スモークハウスでは1年生が園児と手をつなぎ体験できた。小学校だと一番下の学年だが、園児に対して思いやる姿が見られ、小学生にとっても良い影響が与えられた交流だった 	<p>保育教諭が教材研究を重ね、どんな教材が良いのかを知り、遊びの内容や出すタイミングなどを工夫しながら子どもと一緒に実践していく</p>
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場면을想定しての訓練を行い、緊急時の身の守り方を身に付けられるよう指導する ・ヒヤリハット、ケガの分析を行い、事故防止につなげている 	<p>職員で防災教育の防災研修会に参加し最新の情報を得ることで、危機管理意識を高めることができた。また、子どもと一緒に全職員で各部屋の「危なくない場所」の確認や避難の仕方話し合えた</p> <p>地震発生マット「ゆれた」に子ども、保護者、職員で乗り、揺れの中での安全な姿勢や避難の仕方を体験できた</p> <p>子どもたちとスモークハウスを体験することで火災時、煙の中での避難方法を体験できた</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との交流が積極的に行われている。スモークハウスでは1年生が園児と手をつなぎ体験できた。小学校だと一番下の学年だが、園児に対して思いやる姿が見られ、小学生にとっても良い影響が与えられた交流だった 	<p>避難の仕方を保育教諭も学び、様々な場면을想定して訓練を行っていく</p>
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・健康的に過ごせるよう、規則正しい生活習慣や食育の充実が心にかけている 	<p>自分たちで好きな苗を買い、育て、収穫し旬を感じながらクッキングを楽しんだ。降園時間に保護者と一緒に調理したものを食べたり、野菜を持ち帰り再度クッキング体験をしたりすることで家庭とも共有することができた。地域の農家さんの協力で、お茶摘みやイチゴ摘みなどの体験もでき、稲を育て子どもたちで米を研ぎ新米を食べるなどの体験や大根を使いおでんを作る中、出汁について学ぶこともできた</p> <p>毎月、食育の会を通し、噛むこと、早寝早起き、栄養、旬の食材について大切さを学ぶことができた</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産であるお茶について茶摘みや、手もみなどを体験することができている。校外学習として、今後も行き積み重ね、地域や地場産品への興味を深めていってもらえたらと思う 	<p>その時期ならではの食材に触れながら、家庭と一緒に食育活動を行っていく</p>
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・その子に合った支援計画を立て毎月見直しを行い、研修で学んだことを活かしながら適切な支援している 	<p>サポートプランをもとに保護者面談を定期的に行い、園での様子を伝え保護者と共通理解を図った</p> <p>毎月ケース検討を行い、今の姿を具体的に共有し、発達段階や支援方法について話し合いをもちながら保育に役立てることができた</p> <p>研修会で学んだことを報告し、全職員の質の向上につなげることができた</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災研修会に全職員が参加し、共通理解のもと、地震の揺れを体験できたのはよかったと思う。職員の体験が子どもたちの防災教育につながっている。子どもたちが経験することで、知識として残ることも多いと思う。 	<p>面談を進めながら園児の育ちや支援方法を保護者と共有していく</p>
5 組織運営	(1)組織体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・責任をもって分掌に取り組み、連携しながら、チームで保育を進めるという意識をもっている 	<p>一人一人が自分の役割を理解し、責任をもって分掌に取り組む中で、企画書を作成したり、打ち合わせで進捗状況を確認したりし職員間で共有することができた</p> <p>声を掛け合いながら行事は早めに準備をするよう心掛け職員で仕事を割り振り、行事を円滑に進められるようにした</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災研修会に全職員が参加し、共通理解のもと、地震の揺れを体験できたのはよかったと思う。職員の体験が子どもたちの防災教育につながっている。子どもたちが経験することで、知識として残ることも多いと思う。 	<p>分掌の担当者が声を掛け職員間で連携しながら進めていく</p>
6 研 修	(1)研修体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・研修テーマ「おもしろそう」「たのしい」「やってみたい」が実現できる環境と具体的な手立てについて振り返っている 	<p>木曜日の週案会議で担任間で話し合いや反省ができ、次週への保育につなげることができた</p> <p>公開保育を行う中で、研修テーマに沿った事前、事後研修で保育について見直したり、職員からアイデアをもらったりすることができた。また、子どもの興味関心や心の動きなどについて話し合い、こども理解につなげることができた</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とのかかわりが深まり、字を書くことが嫌いだったが、友達に手紙を渡したいからと家でもよく書いたり、折り紙を折ってプレゼントをしたり、机でじっくり行うことが増えてきている 	<p>子どもたちの意欲が引き出せる環境構成を行っていく</p>
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や発達に合った遊びができ、伸び伸びと遊べる安心・安全な環境が整えられている 	<p>散歩を通して自然物と触れ合いながら季節ごとに出会った花や木の実、枝などを使い子どもの発想を形にして遊びに使うものを作ったり、作品作りを楽しんだりすることができた。園内の広さを利用し、一部屋を使いおぼけ屋敷やドングリ転がし機など、子どもが作って遊んだものを取って置き明日の遊びにつなげることができた</p> <p>壁面装飾や織姫、サンタなどからの手紙を利用し季節や行事に関する投げかけをしながら、子どもたちの気づきをもとに環境を整えるようにした</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スモークハウス体験を通して、煙の中を歩いた経験から、「煙は怖いから家でもきをつけよう」というようになった。経験したことが身につけている。園での経験が家庭へとつながっている 	<p>子どもたちが季節に合わせた経験や行事に向かっての取り組みが楽しく行えるよう、見直しを持ちながら環境を整えていく</p>
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・園便りやクラスだより、行事ごとの活動の様子を視覚的に保護者に伝え、家庭との連携を図っている 	<p>口頭で保護者に一日の様子を伝えたり、毎日、タブレットで様子を配信したり、写真を使用した園だより、クラスだより、ドキュメンテーションを作ることで視覚的に保護者に園での活動を知らせることができた</p> <p>収穫した野菜で調理を行った日には、降園時間を利用して親子で話し合いながら一緒に食べてもらう時間を設けたり、保護者参加型で染物やお祭りを楽しんだりした</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スモークハウス体験を通して、煙の中を歩いた経験から、「煙は怖いから家でもきをつけよう」というようになった。経験したことが身につけている。園での経験が家庭へとつながっている 	<p>こども園での子どもたちの様子を写真を使ったドキュメンテーションや動画などで伝えていく</p>
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校やこども園との交流や公開保育などを行い、情報交換を行っている 	<p>近隣のこども園(安倍口中央・服織・中薬科・清沢・足久保こども園)と交流を持つことができた。</p> <p>小学校では小プールを体験したり図書館や保健室を見学したり学校探検を楽しむことができた。また、安倍口小学校PTAスタンブラリーのポイント地点として園児と小学生が触れ合えたり、スモークハウスや避難訓練を一緒に行ったりし、子どもたちの就学に向けての期待が膨らんだ</p> <p>他園や他校の授業参観や公開保育など参加し情報交換を行った</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画性が良く、外部から刺激をもらいながら教育・保育が行えている。また、小さな園の良さを活かし、子どもたちだけではなく保護者に対しても丁寧なかかわりができている。今後も、一步一步、前進してほしい 	<p>地域の小学校やこども園との交流計画をたて、実施していく</p>
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な人との交流を通して園ではできない経験をしている 	<p>坂田先生(静岡福祉大学)の環境学習に参加することで地域の動植物や虫に興味を示すようになった</p> <p>地域の農家さんの協力でも、お茶摘みやイチゴ摘み、米や野菜作りを行ったり、JA美和のお茶の入れ方教室やTMCさんのお話、国際交流やサイエンス教室、内宮サロン、安倍口サロン、楽寿の園ZOOM交流への参加などを体験したりすることで、園内だけでは味わえない色々な刺激をもらい子どもたちのワクワク感が伝わってきた</p> <p>保育者が地域の方に挨拶する様子を見て、子どもたちも自然と挨拶をかわし地域の方との触れ合いを楽しんでいた</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画性が良く、外部から刺激をもらいながら教育・保育が行えている。また、小さな園の良さを活かし、子どもたちだけではなく保護者に対しても丁寧なかかわりができている。今後も、一步一步、前進してほしい 	<p>地域の方と触れ合える機会が持てるよう計画をたて、安倍口地区の良さが感じられるようにしていく</p>

